



校長 坂本 晋

# みたけが原便り

## 第11回 「私と小鳥と鈴と」

(3月終業式講話より)

激動の令和元年度がまもなく終わろうとしています。皆さんは今自分の1年を振り返り、どんな達成感を感じているでしょうか。

ただいまは、学習、生活、体育・文化、様々な活動で顕著な活躍を見せた皆さんが呼名されました。その努力に心から敬意を表します。

どれもそうですが、私が特に素晴らしいと思うのは、皆勤を通じた人たちです。1年間心身ともに健康に過ごせたという勲章ですが、これは、自分を律するというセルフコントロールが出来ていたからこそ達成できた金字塔です。社会に出るまでには是非身につけてほしい「生きる力」の基本を自分のものにできた証です。

ただこれはほんの一端です。中央附中生の潜在能力はこれら表に現れたものだけにとどまりません。諸君は素晴らしい能力に恵まれていますので、これを眠らせておくのは「モッタイナイ」。新年度はそれぞれが自分の持ち味を生かして、さらなる高みに挑戦することを期待します。

さて、本校は猛威を振るう新型コロナウイルスへの感染防止のために臨時休校に入っていました。今日は久しぶりに仲間の顔を見られてうれしかった人も多いと思います。

1週間前、WHO・世界保健機関は、世界的な大流行・パンデミックを宣言しました。

100年ほど前にもコロナ禍と同様、世界の人々を恐れさせ震撼させた病気がありました。コレラです。しかし、これが地球をグルッと一回りするのに時間はどれくらいかかったでしょうか？実に20年の月日を要したんです。

これに対し、新型コロナは昨年末からのわずか3ヶ月で世界の150ヶ国、約21万人に広がりました。9億人の生徒たちが学校に通えな

いという事態が出来ています。この猛烈な感染拡大を防ごうと、世界中で人々の移動が制限され物資の流通が遮断されています。その結果、相互依存と役割分担が細部まで及んでいる世界経済が大きな痛手を被り、その影響は日常生活へも広範囲に及んでいます。

そうでなくても今世界では、各地に自国第一主義に基づく様々な問題や軋轢が生じています。いわばコロナウィルスによってグローバル社会の存立・存亡が試されていると言っても過言ではありません。

グローバル社会とは多様性を大事にし、考え方の違いを乗り越えてそれぞれが得意分野で協力し合おうという社会です。哲学者のヴォルテールはこう言いました。「私はあなたの意見には反対だ。だが、あなたがそれを主張する権利は命をかけても守る。」今こそこうした精神を守っていかねばなりません。それを実践していくのが皆さんの使命です。

皆さんは金子みすゞという詩人を知っていると思います。その「私と小鳥と鈴と」という詩に、「鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがって、みんないい。」というこれも有名なフレーズがあります。最後がいいですね。「みんなちがって、みんないい」。この「みんな」の中にはすでに皆さん自身とみなさんのクラスメイトが入っていると思います。コロナ禍を契機として「みんな」の中に、それぞれの国で日々懸命に生きている大勢の人々をぜひ加えてみて下さい。きっと今皆さんが生きている世界がぐんと広がり身近なものになるはずです。

もう一度尋ねます。この1年間を振り返って皆さんは今、一体どんな思いをかみしめている

校長通信「みたけが原便り」 令和2年3月19日(木)

でしょうか。殆どが何らかの手応えを感じていると思いますが、一方まったく後悔や反省を感じないという人はいないと思います。「やったつもりだけど結果が出なかった。」「もう少し頑張れたはずなのに・・・」

そういう人は、そこから目を背けないことです。

皆さんはそれぞれ、素晴らしい力を持っています。これは間違いない。ですから、まずはそういう自分を丸ごと受け止めましょう。ありのままを認めるということは、実は、勇気が要ります。なぜなら、それは自分の弱さとか、狡さとか、格好の悪い所からも、目を逸さないということだからです。

だからこそ、その勇気をテコにすればいろいろなことに挑戦できます。「可能性への挑戦」というのは、言い換えれば「失敗を恐れるな」ということです。自分が思い切って行動に出たこと、本気でやろうとしたことは、かりに失敗したとしても必ず未来につながります。そこから学ぶことができるからです。

今月の5日は「啓蟄」の日でした。二十四節気の一つで、「これまで土の中で冬ごもり・冬眠していた虫たちが、大地が暖まってきたので春の訪れを感じて、穴からソロソロ出てくる」という日です。

皆さんにも、まだ眠っている可能性はありませんか？もしあったら、それを揺さぶり起こして、目覚めさせなければなりません。明日は春分の日です。うかうかしてはいられませんね。さっそく今日から皆さんの新たな行動とチャレンジが始まることを期待して、修了式の話とします。

